

巻頭エッセイ

それは突然に



一般財団法人民事法律協会 顧問 佐々木 暁

今日は朝から雨である。久しぶりの外出である。かつての職場のOBが集う懇親会に参加するため、気持ちは晴ればれである。靴箱から少し前まで履いていた黒い愛用の革靴を出して、しっかりと磨き上げた。

いざ出発の時間となり、久しぶりの外出とOB会の面々とのグラスをおつけ合う喜びを思い浮かべながら、意気揚々と（少しばかり大げさ）玄関を出た。

JR 駅に近づいたところ、足元に異変が・・・足の裏が靴下越しに、雨に濡れた路面と仲良くしている・・・「どうした？ 右足君よ」、即座に事の重大性を察知して後ろを振り返る。「ご主人様、僕を置いていかないで」とばかりに、愛すべき靴底が寂しそうに手を振っているのではないか。

ものの見事に靴底がキレイにすっぽりと剥がれ落ちている。周りを見る間もなく、慌てて靴底を拾い上げて、本体と合体したがくっつくはずもない。

即刻、妻に電話をして、代わりの靴を持ってきてもらう。妻が到着するまで、通行人を気にしながら、足の裏に靴底を充てて、傘で顔を隠しながら、ひたすら待つ。長い長い時間である。妻と言えは笑いを堪えるのにひたすら精神集中していたのを思い出す。妻から靴を受け取り、今度は、しっかりと踏んだり蹴ったりして、強度を確かめたのは言うまでもない。

OB会の面々との久しぶりの乾杯も、完敗の味の予感がした。これぞシャイな私？にそれは突然に訪れた不幸な事故・事件である。正に踏んだり蹴ったりの久しぶりの外出の顛末である。

ことのついでに申し上げれば、この靴は、退職時に、私としては清水の舞台から飛び降りる位の気持ちで財布を叩き、一生のものとして買った靴で、まだ一度しか履いていなかった。最初の履き下しが確かお通夜だったかも。

誌友の皆様も久しぶりの外出の際には、突然の不幸？に見舞われませんようにご注意ください。既にご経験済みの方がおいでかもしれませんが。

かつて若かりし頃のゴルフ場でも、コースの草葉の陰で一人寂しくご主人様に置いて行かれた片方だけの靴底が泣いているのを目にして、思わずにやけていたのを思い出す。ご主人様はカートで逃げたか。悲劇は突然訪れるのである。

間もなく齢80の壁をどう乗り越えようかと考える年になると、これまでの人生において、様々な「突然の事態」に遭遇してきた。

私の場合、これまでの人生一番の「それは突然に」は、『佐々木さん、この症状は、「狭心症」ではなく、「白血病」です。すぐに治療を開始します。』と、医師から告知

された瞬間である。然も単身赴任中のとある極寒の地での突然の宣告である。単身赴任も極寒の地もこの話には関係はないのですが。

単身赴任中、健康維持のために毎日ウォーキングを日課としていたが、その土日は全く身体も気力も動かない。食欲も無い。土曜日にコンビニで買った二つのおにぎりもそのままである。月曜日に何とか出勤したが、私の様子を見た職員から、無理やり病院に行くように勧められた結果の先の宣告であった。最初の診断は狭心症ということであったが、真夜中の血液検査や胸部からの骨髄採取等の詳細診断の結果、「急性前骨髄性白血病」との告知がなされた。

盲腸炎でしか入院したことのない私にとっては、「狭心症」も「白血病」も自身のこととは信じられない、突然の出来事であった。幸い現代の先進医療とご担当医や医療スタッフ、多くの皆さんや家族の支援のお陰で、寛解後25年余りを感謝、感謝の気持ちで毎日を送っている。

突然話は変わりますが、この歳になると届くのが、突然の訃報である。学生時代の同級生、恩師、職場の同僚・先輩、友人・知人等の訃報は心に痛い。只々ご冥福をお祈り申し上げるだけである。

さて、全国的な組織を有するところに所属する国家公務員であった私にとって、突然の事と言え、言うまでもなく人事異動発令（内示）である。毎年恒例の人事異動であり、突然とは言い難いかもしれないが、個人にとっては、異動の対象なのか、どこの国（都道府県）か、どんなポストか等々

4月が近づくと心穏やかならずとなる。そういう意味では、不安と期待の入り混じった心の準備もできているので突然でもないのかもしれない。しかしである。突然、偉い人から呼び出されて、「佐々木君、4月1日付けで〇〇局の〇〇係に異動を予定しています。以上です。」と言われて、これが突然でなくて何でしょう。否も応もない。この突然が何回も何回も繰り返されて、最後の突然でめでたく退職となる。覚悟しているとはいえ、悲喜こもごもの突然であったような気がする。この4月には、後輩諸氏もこの突然の洗礼を受けて、全国に意気揚々と向かったことでしょう。

最近の報道によれば、民間会社の53%が転勤があり、事前の同意なしには転勤はさせないようである。リモートワークなどの働き方改革、単身赴任の禁止、同意なき転勤の禁止等々、時代は変わってきている。

最近の突然と言え、足元の道路の陥没、水道管の破裂、ガス管の破裂、ジェットコースターの宙ずり、エレベータの停止等々、どこに突然が潜んでいるか分からない。

最近、毎日の散歩中、マンホール蓋の上は歩かない、側溝の上は歩かない、建設中のビルの下は通らない、靴底は大丈夫かな等々思いながら歩いていると、相当に疲れる。

最後に気になるのは、私自身にいつか訪れるであろうあの突然である。今のところその予兆は無い。が、暫しお待ちいただくよう祈るばかりである。笑って終われる「突然に」が良いと願っている。